

山は概ね赤土黄土に礎石を混じ、往々礎石の危巖谷中に峭立するを見る。途上
 鷺、鶴、鳩類及例の鴉等の飛べるを見たり。蓋しエンギ嶺超過以來、頭重く呼吸迫り
 し、本日に至りて頑健なる馬夫すら、尙ほ且つ頭痛を感ずと聞く。乗馬の漫歩は
 少々可なるが、徒歩は呼吸切迫して、近距離も亦續け得ざりき。

午後は半晴、気温四十三度に達し、二時二十分バクソンブラク（或はクズルターク）に着す
 行程十三里弱。道路は緩なる上傾斜を成し、渡河少く、且つ水皆淺くして、難路も亦
 少々夷とすべし。

一二、山道第一の高嶺喀喇崑崙カラクムの超越

十月一日、気温日出前二十三度、日中四十三度、日没二十四度（天幕内三十三度）。
 愈々本道中の最高嶺、海を抜くこと實に一萬八千五百五十尺なる、喀喇崑崙嶺を
 通過せざるべからず。既に氣は重く、呼吸苦しく、頭痛亦堪へ難きに、此上尙ほ幾千
 尺の絶巔に登らんか、其狀況果して如何ならん。縦ひ如何なる困難の身に迫らむ
 も、他人の能く耐へ得べき限りは、我豈獨り堪へ得ざるの理やあるべき。祈るは只
 天候の異變なからんことのみ。

バクソン
ブラク

一萬八千
五百五十
尺